



東北森林管理局 森林技術センター

平成21年
春号

たより

〒037-0305
青森県北津軽郡中泊町
大字中里字亀山540-8
TEL 0173-57-2001
FAX 0173-57-4929
E-mail:t_gijyutu@rinya.maff
.go.jp

国有林の技術開発目標の改正

所長 寺田 治男

平成15年度末に、「国有林野事業における技術開発については、森林技術センターを中心に、国有林野を活用した技術開発を拠点的・集中的に取り組み、その成果を管理経営に活かすとともに、研修の場の提供等を通じた普及・定着に努め、地域林業の振興に資するとともに、これを踏まえて効果的かつ実用的な技術開発の推進に努め地域林業関係者への成果の普及や技術開発に係わる評価の仕組みをより充実すること」とした、技術開発基本目標の改正が行われました。

これを受け、16年4月から全国に14カ所あった森林技術センターが、各森林管理局に1森林技術センターに再編され、旧青森分局管内にあった森林技術センターが存置し、主に青森ヒバの技術開発に取り組むこととして新たなスタートを切った年であります。



21年3月、前回の改正から5年が経過し、国民の新たなニーズに応えるべく国有林の技術開発目標が改正されました。

近年、林業の採算性の低下や伐採可能な資源量の減少などによって、国有林を取り巻く状況は急変しており、また、生物多様性保全への取り組みも重要なものとなり、技術開発の目標も見直しを迫られたためです。

今回の改正は、民有林と連動した林業経営に貢献すべく実用性に重点を置くことを強調しています。つまりは、「国有林における技術開発の目的が民有林への普及も含めた実用化にあることを十分認識」し、「それぞれの課題の成果が早期かつ着実に実用化に結びつくよう努めること」とあることから、森林技術センターとしても、技術開発課題の早期の実用化に取り組むことが重要と考えております。

また、低コスト造林手法の開発等益々重要となってくると考えられます。森林技術センターにおいても、低コスト造林の開発のため、スギ人工林に侵入している有用広葉樹を含めた複層林への育成技術の開発に取り組むこととし、今年度から課題設定を行っているところであります。

国有林における技術開発の目的が民有林への普及も含めた実用化にあることを十分認識し、今後も森林技術センターが取り組んでいる各課題について積極的にPRし、関係機関と連携を行いながら技術開発に取り組んでいく考えでありますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

風倒被害地におけるヒバ後継樹育成技術の開発

東北森林管理局森林技術センター

今年度から取り組む技術開発課題について紹介します。

はじめに

青森県の特産樹種であるヒバは希少な材として市場の評価が高く、貴重な森林資源として大きな役割が期待されています。また、ヒバ林は尾根沿いや急傾斜地に多く、近年注目される国土保全などの公益的機能の役割も大きい。

このような中、ヒバは浅根性であることから、近年の異常気象の下で多発する台風などによる風倒被害等から林冠が強度に疎開した林分が多くみられ、薪炭採取等の人為が無くなった近年、笹や灌木の侵入や定着が進んでいる。

このような林分にも天然ヒバ稚樹が存在するが、笹や灌木に被圧され上方成長しにくいことや、笹が密生し下枝が接地しにくいいため、伏条更新が妨げられる場合があり、将来低質の広葉樹林や笹生地になってしまう可能性があると考えられます。

このことから、笹の刈り出し、伏条更新補助、直挿し等の更新補助作業が必要であり、これにより風倒被害地の早期の復旧を目指したいと考えています。

試験地設定

開発箇所および対照区（無施業区）においてプロットを設定し、プロット内の全稚樹を個体識別して更新状況等を調査します。

その後、天下Ⅰ類地拵えに加え、笹や灌木の刈り出し、ヒバ稚樹の伏条更新補助、ヒバ枝の直挿しといった天然更新補助作業を実施し、その効果を調査・検証します。

また、天然更新広葉樹を保残するとともに、個体識別し更新条件等を調査します。さらに、作業コストなどを調査し低コストの施業方法についても検討します。

また、試験地の設定や調査データの分析等については森林総研と、更には直挿しに係わる技術的方法等については平内青森ヒバ研究会と共同して、風倒被害の笹生地における有効なヒバ後継樹育成技術を開発することとしています。



写真1 風倒木被害地の様子



写真2 伏条更新の様子

試験地について



東北森林管理局 山崎局長が来所

東北森林管理局の山崎局長が忙しいさなか、2月25日（水）に森林技術センターに来所され、職員に訓辞を頂きました。

局と署等は情報を共有し、局・署等一体となった取り組みが重要であること、また、さらなるコンプライアンスの確保が重要である旨お話がありました。

最後に、災害のない明るい職づくりに努めて欲しい旨要請され技術センターを後にしました。

年度末のお忙しい中、ご指導いただき感謝しております。今後も安全に留意しながら、無災害を継続していくこととします。



森林技術センター会議室にて山崎局長訓辞

東北森林管理局 草留企画官、高橋主任官来所



左から高橋主任官、木村業務係長、草留企画官、田畑森林技術専門官です。

二日目は、施業指標林になっている347林班を視察しました。

この試験地は、100m×100mの区画を設定していますが、区域表示テープを野ウサギ等にイタズラされる被害があるなど、試験地の維持に苦労していることを伝えました。今後の課題として検討をお願いしたいとセンターから要望しました。

両日とも、草留企画官、高橋主任官は盛んにメモを取り、技術センターが取り組んでいる課題に対して理解を示してくれました。

今後とも、ご指導をよろしくお願いいたします。

4月21日に着任したばかりの草留企画官と高橋主任官が当技術センターへ視察に見えられました。

一日目は、あいにくの雨模様でしたが、林野庁重点課題の巣植え試験地を視察しました。この試験地は、今年度に終了する課題であり、今後の取り扱いについて、意見交換を行いました。

その後、森林技術センターにおいて、センターの概要等について説明を行い、一日目の予定を終了しました。



228林班は4小班 スギ・ヒバ混交林地にて

お世話になります。

新技術専門官 田畑 良輝

4月1日付けをもちまして森林技術センター専門官として赴任して参りました田畑と申します。

出身地は九州の熊本県（芦北）です。こちら東北地方への赴任は初めてで多少戸惑い（方言や生活環境など）ありますが、所長をはじめ職場の皆様がよくして下さいるので大変感謝しております。また赴任早々に現場に赴く機会があり、その際に林道や沢での残雪を見たときはまだまだ春は遠いのかなと思いましたが、3週間も経つと草木が芽吹き始め、草花もえでる季節が到来したと感じております。

森林技術センターは「森林の取り扱いについての技術開発、試験・研究を行うところ」と伺っております。特に技術開発に力を入れている青森ヒバにつ

いては、私自身、直接初めて見る樹種で、また生態等は勉強中ではありますが、当センターでの研究成果が貴重な資源である青森ヒバの育成など少しでも貢献できればと思っております。また、それ以外にも「新しい発見・研究を見つけていくぞ」ということを常に持ち続け一生懸命頑張っていく所存です。

何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、所長を始め職員の皆様のご指導、ご支援のほどよろしくお願いたします。



お世話になりました。

前技術専門官 尾上 好男

このたび4月1日付けで、岩手県大船渡市に所在する三陸中部森林管理署で勤務することとなりました。森林技術センター在勤中は、諸先輩方や各研究機関・大学等の先生方から様々なことを教えていただきました。特にヒバについては、皆さんの熱意が私にも伝染し、興味を持って調査等をすることができました。この場を借りて御礼を申し上げます。

新任地管内の五葉山山頂付近にはヒバが見られるようです。興味のある方はご案内しますので、ぜひお立ち寄りください。

それではまた皆様にお会いできることを楽しみにしております。



お疲れ様でした

当センターの基幹作業職員、金澤幹夫さんが3月31日付けをもって定年退職されました。

旧中里営林署時代は製品生産事業、森林技術センター発足以降は技術開発業務へとその体得した技術や知識を遺憾なく発揮して頂きました。

金澤さんは、その温厚な人柄から、センター職員に親しまれ、今後とも技術開発の指導等にご活躍する予定となっております。

長い間ご苦労様でした。



編集後記

森林技術センターも新しい職員を迎え、気持ちを新たに調査に取り組んでおります。

今年度早々、4月末に雪が降り、5月上旬には雹が揺るなど、津軽地方は異常気象の前触れかなと思うほどでした。これも、地球温暖化の影響でしょうか。？